

かみさと



学校教育目標
豊かな心もち
他のために行動できる子
やさしく かしく
たくましく

- ㊦んがえて行動 ㊦んなにあいさつ
㊦そい合って働く ㊦もだちを大切に

さいたま市立上里小学校 学校だより

発行者 校長 梶山 崇

〒339-0006

さいたま市岩槻区上里2丁目2番地

令和3年7月1日(木) 7月号

TEL048-794-2316

野外炊飯大成功（館岩自然の教室より）

校長 梶山 崇

6月7日(月)～9日(水)と2泊3日で館岩自然の教室に行ってきました。天候に恵まれ、すべてのプログラム(活動)が実施できました。プログラムの内容ですが、1日目はフィールドワーク、キャンプファイヤー、星空観察、2日目は野外炊飯、源流探検、3日目は緑の体験活動でした。子どもたちは自然の教室のスローガンを「自然の中で大切なことを考えよう」と話し合い決めました。一人ひとりが自然の教室の期間中、大切なことを考えたと思います。

子どもたちはすべてのプログラムに意欲的に取り組みました。2日目のプログラムである野外炊飯(カレー作り)では、子どもたちが自分たちで考え、仲間とコミュニケーションを取りながら、成功体験を十分味わいましたので、紹介させていただきます。

野外炊飯を始める前に、自然の家の指導者の先生も学校側も「自分たちで考えて取り組もう。失敗してもいい。火や包丁を使うので、安全については声かけをします。」を指導の基本線としました。子どもたちは調理担当とかまど担当に分かれて活動しました。調理担当は、はじめに包丁で野菜類を切ります。じゃがいもの皮をむいたり、ニンジンや玉ねぎを切ったりしました。調理実習ですでに取り組んでいたため、とても上手にできました。鍋に水を入れ、切った野菜や肉を入れて煮込みます。鍋に入れる水の量も子どもたちの持っている自然の教室のしおりには「水や野菜がかくれるくらい入れる」と書いてありましたが、水の量は各グループさまざまでした。

一方、かまど担当は薪に火をつけることは簡単ではないことを実感したと思います。火をつけるためには、薪の中へ入れる新聞紙の置き方を工夫したり、薪を火が付きやすくするよう並べたりなど工夫をしましたが、薪にうちわで強い風を送ることが火をつけるのに一番効果的であることも学びました。

子どもたちの調理の様子を見ていましたが、鍋にカレーのルーを入れたら弱火にしたり、カレーを煮込んでいる間、調理器具などの片付けをするよう班で声をかけ合ったりしていました。他の班のよい動きを参考にすると班もいくつも見られました。この活動をとおして、子どもたちが自分たちで声をかけ合ったり、考えたりすることの大切さを学んでくれたと思います。

なお、この自然の教室を実施するにあたっては、さいたま市教育委員会が発行している「コロナ禍における自然の教室ガイドライン」を参考にしました。感染防止対策として食事場所ではテーブルの中央にパーテーションが設置されていたり、向かい合わないような座席配置をしたり、1部屋の人数は定員10人のところを5人にしたり、ベッドとベッドの間にパーテーションがあったりなどこれまでの自然の教室と異なる部分もたくさんありました。また、バスに乗るとき、部屋に入るとき、食事場所に入るときには手指消毒をするなど、消毒を何度も行いました。

今年度は全学年で校外行事を予定しています。自然の教室ガイドラインや修学旅行等ガイドラインを参考にし、校外行事を通して、子どもたちの体験、気づきを大切にしたい指導・支援をしていきたいと思っています。今月も本校の教育活動にご理解・ご協力をお願いいたします。